

3. 在宅医療のこれから

在宅でつなぐ滋賀の未来。

在前先生のおかげでたくさん学んだ。 これからの在宅…

自分たちの理想…

みんなはどんな在宅医療にしたい？

在宅だけにこだわらない自然なしくみを作りたい！

病院

希望

安心感

つながりコミュニティ

本人・家族

地域

最期まで家で過ごせるしくみを作りたいね

地域ぐるみでやっていきたい

本当に必要としていることができるように “在宅医師”が増えてほしい！

“薬剤師”が行く！町の科学者になる！

口腔ケアの大切さを知ってほしい！

ケアマネジャー

薬剤師

歯科医師

「いい人生だった!」と思えるような、人生の最期を充実してすごせるように…

これから在宅医療を始める医師のみなさんへ

滋賀県の地域医療を私たちが応援しています!

ありがとうございました!

END

滋賀医科大学 学生

インタビュー 12

こうなってほしい!在宅医療の未来

今回のインタビューでは、在宅医療の未来をどのように思い描いているのか?といった内容もお伺いしました。ここでは、色々な立場の方の声を集めれば、在宅医療の未来が見えてくるのではと考え、その声をまとめています。



在宅医さん

田舎はご家族で介護していく慣習が残っているが、都会の独り暮らしや夫婦だけで暮らしている方も、家で最期まで暮らせる仕組みを作っていきたい。

患者さんの「こうしたい」という希望を支え、生活を支えていけるような医療にしていきたい。そのためには、そばにいて話を聞くことで安心感を与えたり、患者さんの意思を尊重したりといったことが大切。在宅医療に携わる人も増えれば嬉しい。

病院で亡くなることと在宅で亡くなるのが同じ価値を持つ時代が来れば良いと思う。在宅至上主義になる必要はない。本来なら病院で亡くなる人が無理をして自宅に帰り、ご家族がポロポロになってしまうこともある。亡くなる直前までが在宅で、最期の1日が病院であってもいいと思う。病院と在宅の自然な行き来がある体制が理想。

生まれるときと同じくらい大切な亡くなる時の過程を、在宅医療でその人らしくしてあげたい。決まった時間しか行けない訪問看護だけでなく、地域の人の支えを借りながら、地域ぐるみでやっていきたい。

看護師さん



ケアマネジャーさん

負担にならない範囲で各関係者ができることを増やし、患者さん・利用者さんが本当に必要としていることをカバーできるようになってほしい。また、在宅医療をする医師が増え、自宅看取りができる地域が増えてほしい。



歯科医さん

口腔ケアの大切さが、まだ十分には認識されていないと感じている。在宅医療における歯科治療が当たり前となり、医師と歯科医が連携して、よりよい医療が提供できるようになってほしい。



学生

県民の約半数は人生の最期を自宅で迎えたいと希望されています。2025年には、在宅看取りが必要となる人は現在の約2.5倍になると予測されます。医療依存度が高くても住み慣れた場所で生活したいという希望、在宅で最期を迎えたいという願いを叶えるためには、多職種が地域の方々とともに、在宅療養者を支援するネットワークを作っていく必要があります。常にお互いに目配り・気配りができ、必要なサービスや医療につながる仕組みづくりを、多くの方々と共に目指したいと思っています。

滋賀県行政

